

令和4年度協同農業普及事業外部第三者評価会議
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言、提言 まとめ

1 普及指導活動の体制について

(課内の分担、関係機関との連携、普及指導員の資質向上の取組等を含む)

(現地指導時間の確保)

体制自体については取り上げるべき問題はないといえる。

ただ、組織構造、人員配置では見えない勤務の内実はどうであるのかが気になった。活動に関わる書類や評価に関する書類などの処理が増え、現場に出向く時間が削られているのであれば、改善すべき。

普及活動は、技術の伝達から人のネットワーク形成や寄り添いながらの助長が重要になってきている。それに応えるためには、現場に出向いて人と向き合う時間を十分にとる必要がある。そういった意味での「働き方改革」が必要ではないか。

(人材の集中管理)

普及指導員 208 人に対して重点課題 74、普及事項 380 という数は 1 人当たりの業務が過大にも思われ、結果的に十分手を掛けられない課題があるのではと危惧する。2020 年までの 5 年間に県内の農業就業者数は高齢化等により 27%減少し、21 年度の新規就農者数は 14 年度比で 22%減少するなど本県の農業が危機に瀕しており、それを何とか食い止めたいという気持ちは分かるが、危機だからこそ費用対効果を元にした人材の集中管理が必要なのではないか。

(若手職員の確保、育成)

普及指導員は 50 代が 4 割を占める。経験豊富なベテランが多いことは心強いが、公務員の定年延長実施後でも 4 割はこれから 10 年前後で定年退職を迎える。退職者増に伴って採用数は増やす予定なのか。ベテランの経験を若手に引き継いでいくための具体的な施策が必要と思われる。

(職員の確保、育成)

普及事業は農業振興・農業者支援において、非常に重要な役割を担っていただいていると思います。

今後、農業者の減少という基盤縮小を見据えたなかで、職員の業務効率化を進めるとともに、職員の育成（能力開発）期間・年齢構成バランス（50 歳以上が 4 割）などの観点で、最適配置ならびに新規採用計画の検討を行い、普及事業の機能維持をお願いします。

(今日的な行政施策への対応)

今年のトピックスは、農業の改革に関して新たな組織・取り組みが始まったということではないかと思います。「あいち農業イノベーションプロジェクト」は、これから本格的なスタートということではありますが、新たなテーマについていくつものプロジェクトが始まります。普及課にとっても、こうした新たな組織やそこから生まれ出るノウハウなどをどのように広く展開していくかということが大きな課題になるだろうと思います。

(内部連携の仕組み)

そのためには、関係各所の連携をしっかりと取れる体制を作り、常に緊密な情報交換を行い、タイミングよく現場に提供して行ける「仕組み」を作ることが必要です。そうした、整合性のとれた組織活動を期待します。くれぐれも「あれは別の部署だから」と対立構造にしないようにお願いします。

(今日的な行政施策への対応)

パーツごとには盛り込まれていますが、みどりの食料システム戦略、あいち農業イノベーションプロジェクト、一体的支援プログラムなどにおける取組課題かを明確にしたうえで、計画策定する必要があると考えます。

外部環境の変化に対応できるように、期中での計画修正や追加設定などの柔軟な対応が必要と考えます。

(内部連携)

質問に対し、「～出来ない」と即答に近くお答えになっていることから、担当者(一人?)レベルでの判断で取り組みを進めているように感じる。もっとチームでの支援体制が整い、課題解決への力が湧くような指導員の支援体制が更に必要であると考えます。

(新規就農者の受け入れ)

イチジクは愛知県が全国最大の産地だが、家族農業による長時間労働や高齢化により、発表した知多いちじく部会のみならずどこの産地も農家数は減っている可能性がある。産地を守るために、新規就農者の受け入れは喫緊の課題。PC設置による集荷作業の外部化と労働時間の平準化で、イチジク栽培面積の増加と秋冬野菜の栽培(多品目化もしくは複合経営)を進めるのは効果があると思われる。新規就農者を受け入れるに当たっては、農地確保のや指導員・既存農家による栽培指導も充実させる必要がある。

(リース団地の取組)

補助金利用によるリース団地、設備導入は効果的であり同様の方式は波及効果もあると思う。

(関係機関との連携)

実績が上がったところは、関係機関との連携はもとより、関係機関も含め、それぞれの立場にいらした各担当者が判断力と協調性に優れていたと思います。これからも良い出会い、良い関係づくりが出来ることを願っています。

(関係機関との連携)

既存農家、新規就農者の関係性と J A、経済連と普及指導との連携がうまくいっていると思う。

(関係機関との連携)

普及課と J Aとのタッグが素晴らしい。

2 普及指導活動の計画について（普及課題・対象の選定、目標設定等を含む

<p>(長期・短期の視点)</p> <p>発表された普及活動についての計画はおおむね妥当といえる。</p> <p>地域での現代課題に取り組んでいることが理解できた。課題によっては、期間の長短にバリエーションがあっても良いのではないか。場合によっては、小課題に分割や絞り込みをせずに、大課題として長めのタイムスパンを取り、実行しながら課題を探り詰めていくやり方もあって良いように考える。</p>
<p>(長期・短期の視点)</p> <p>地域・生産者を考慮した課題設定となっておりますが、将来を見据えて長期展望視点での課題、現場における喫緊の問題を取り上げた短期的課題と整理したうえで、いつまでに、どのレベルまでの定性・定量目標を明確に示し、取組成果が正しく評価・判断できるようにして、取組のPDCAサイクルを回せるとよいと考えます。</p>
<p>(作目ごとの課題数のバランス)</p> <p>愛知県農業の特性が影響するのかもしれないが、園芸や果樹、野菜に関する課題が多く、稲作に関する課題が少ないようにみえた。</p>
<p>(対象の選定)</p> <p>農業経営は、今後大きな課題に向き合うことになると思います。指導員として、(農業者の中でも)リーダーとなり得る人を見分け(適材適所)、(新規就農者等の)指導活動に従事する人材育成に注力していただきたい。</p>
<p>(対象の選定)</p> <p>対象を高年齢化した組織としたものがあるが将来への持続性という点で疑問が残るので若返りの計れる目標、設定も含めて計画してほしい。</p>
<p>(対象の選定)</p> <p>対象の選定にあたり、それまでの対象者・団体とのコミュニケーションが大きく左右することもあるので、数年先を見据えての対象の選定を行っていく必要性を感じる。(例えばSNS配信などについて「従事者が高齢者だから」というのは、事前に分かっていることであり、それが不可能の理由とはならない。高齢者が意欲を持って、楽しみながらSMSと関われる機会・講座などを事前に企画することなど、そこまで計画の中に入れ込み実施してほしい)</p>
<p>(現状把握)</p> <p>農家がいちばん刺激を受けるのが視察だと思います、私たち農家も一番の向上する場面で、普及課さんも農家が何を求めているのかが見えるのでは。</p> <p>どんな作物でも、同じ作物の農家さんなら目がキラキラになると思います。</p>

3 普及指導活動の経過、実績及び成果について

(経営全体の評価)

普及活動の経過や成果について、取り上げるべき問題はない。

課題が具体的に絞り込まれており、その中での成果は問題なく出されている。その反面、他作物との関係性や経営全体をみる視点がやや弱くなっているのではないかという印象が残る場面があった。量的・質的数量関係だけではなく経営面からの評価視点がもっとあってよいのではないか。

(普及指導員間でのノウハウの共有)

担当地域を超えた情報交流、経験蓄積の共有化は、普及活動の実績だけでなく、人材育成にもつながるので、進めていただきたい。

(普及指導員間でのノウハウの共有)

今回発表のあった活動については、いずれも各産地の重要課題を捉えて、それに対する解決策を新たなアイデアで解決・実現した事例であり、その熱意が伝わってくるものでした。そうした中で感じたことは、これらの成果を他の普及員にどのように伝えて、活用して行くかということです。愛知県の「農業普及指導データベース」のようなものを構築し、普及指導員が自由にアクセスし、自分の指導先について知りたいことや困ったことを検索できる仕組みがあればいいと思います。いいままで発表してきた資料について、作物やテーマなどの「分類体系」を作り、それに合わせて資料を貼り付けていけばいいと思います。「ノウハウの共有と活用」がこれからのキーワードになると思います。

(普及指導員間でのノウハウの共有)

指導員の体験により、計画に開きがあると思います。正しい道を選ぶことを求められますが、精度の高い、過去事例の情報共有など活動支援体制の充実を望みます。

(成功事例の展開)

西三河のイチゴ団地が成功しているから、同じような団地に個人農家さんが参入してナス団地に発展していて、言うことないです。他の野菜団地をたくさん作り、どんどん個人農家（新規就農者）の受け皿になる・・・理想です。

(成功事例の展開)

県下各地域の優良事例の県域への水平展開をしてほしい。

4 その他

<p>(報告のスキル) 報告のスキルは上がってきている。</p>
<p>(報告のスキル) 説明は適切でした。意欲もないとは感じられない。</p>
<p>(予算、人材の拡充) 命に係わる産業であり、愛知県としても主要産業であるので、県としての多くの支援を望みます。(予算はもとより、人材も！)</p>
<p>(農業の未来への期待) 5年、10年、15年、20年、農業生産者がどう変化していくか未来の農業が楽しみです。土は大事ですよ。</p>
<p>(生産者に寄り添った活動) 評価会議での4課題の発表を受け、生産者に寄り添った普及・支援活動を実践いただいている業務プロセスがよく分かりました。</p>

5 地域農業の振興に向けて普及事業が取り組むべき活動内容等の提案

(経営方針の具体化に関する指導)

今回の発表で、「経営方針の具体化が重要」という指摘がありました。このことはとても重要です。特に、これから事業を広げていこうと考えている若い農業者や、新規就農者にとっては「必須」のことですが、今まであまりこのことが話題に上がりませんでした。今後は、普及指導員に対して「事業計画のつくり方・指導の仕方研修」を行うことを提案します。現在は、農業大学校で行っている「リーダー塾」にゲスト参加してもらう形で対応していますが、一度すべての普及指導員を対象に一気にスキルアップを図ることを勧めたいと思います。愛知県標準の「事業計画書」を決めて、その具体的な作成法・指導法を学ぶ講座です。もちろんこの中には「経営方針の立て方」も含まれています。リモートを活用すれば、比較的簡単にできることが「女性リーダー研修」でわかっています。

(経営方針の具体化に関する指導)

技術だけでなく経営（各農家の経営理念、目標など意識付いていない事もあるのでこれらを含めて）も取り組んでほしい。

(マーケティング)

「マーケティングを意識した生産」にも力を入れていく必要を感じています。メーカーオリエンテッドからユーザーオリエンテッドへの、思考の転換です。こうしたことを積み重ねることによって、愛知県ならではの、その農場ならではの「ブランド品」を生み出す考え方やスキルが身についてきます。

(マーケティング)

かがり弁ぎくの鉢花の産地化（新城市）は、全国でも珍しい意欲的な取り組みで評価したい。農家4戸で出荷鉢数は初年度の令和元年度1万鉢、3年度が1万5000鉢と順調に増えているが、どこにどんなニーズがあるのかという具体的な調査を実施し、販売方法を多様化させることにより、さらに増やせる可能性があるのではないか。この試みが成功すれば、生産農家はもっと増え、産地として持続可能になるのでは。

(マーケティング)

職員育成において、各種研修を通して専門知識を習得しています。概論でよいので農畜産物の販売やマーケティング戦略の視点を加えることで、出口を見据えた普及指導ができると考えます。

(労働力の確保、農福連携)

担い手の裾野を広げる意味で、非農家世帯員や障がい者などを活かした営農の在り方。

(親元就農者への支援)

将来の農業振興の為 新規就農者とともに親元就農者対策に力をいれほしい。

(就農後の長期的な支援)

新規就農者はもちろん、あと大事なのが40代なのに利益が出ていない農家さん。40歳までには生活できるように軌道に乗せてあげて欲しいです。

(伝統品種、流通・消費)

地域固有の伝統品種の維持拡大をフードシステム全体で図る。

(多様なテーマへの対応)

基本的な考え方やツールなどを紹介していくための機会を作るといいと思います。様々なテーマについて、オンデマンドでいつでも見ることができる仕組みを整備して行ってはどうでしょうか？「愛知県、どうする農業セミナー」と銘打って、農業の経営や作物作りのコツなどについての様々なテーマをラインナップしておく方法です。生産者の方も自由に見られるようにしてはどうでしょうか？

(ネオニコチノイド系農薬の使用量削減)

ミツバチをはじめ生物への影響が指摘されているネオニコチノイド系農薬からの切り替えは、本年度の普及戦略部活動計画概要の県域課題として取り上げているが、削減目標の量や年などを具体的に明示して取り組むべきだ。

(直売に関する指導)

野菜マルシェに関する指導。受講生は農家以外の女性（主婦）、学生など、「××団地で、色々な野菜を作ることができますよ！」とPR。

6 評価会議について意見（普及事業全般含む）

<p>(試行錯誤したプロセスの評価)</p> <p>失敗や上手くいかなかった点などを含めて試行錯誤したプロセスをもっと出してもよいのではないか。成功した部分、上手くいった部分に絞って報告しがちになるのではないかな。</p>
<p>(県農業の分析)</p> <p>全国的にみて、愛知県の普及の立ち位置はどうか、また特色は何か？（そうした分析をふまえ、普及事業を展開すべき）</p>
<p>(質疑及び討議の持ち方)</p> <p>今回の、現地参加とオンライン参加のハイブリッド方式は大変参加しやすかったのではないかと思います。ただ、第2部の「事例ごとの討議」が非公開となっていた点が残念でした。ここでは各委員から活発な質問も出ましたし、発表者との意見交換も熱心に行われました。公開会場では聞けない「熱血討議」をぜひ皆さんに見ていただきたいと思いました。次回からは、この部分もオンラインで提供してはいかがでしょうか？大変参考になると思います。事務局は大変になるとと思いますが、ご一考いただければと思います。</p>
<p>(質疑及び討議の持ち方)</p> <p>成果発表の1件当たりの時間が限られているので多くの参加者がいたが質疑応答も少なく単に発表だけの場所になっていて残念。</p> <p>第2部の事例ごとの討議は事例ごとの問題点、難しさも浮き彫りになりこれらも併せて第1部で発表してほしい。</p>
<p>(課題の分析・一覧表)</p> <p>他の評価委員からも意見が出ていましたが、県全体の農業課題に対して、どのような大課題があり、それぞれにどのような中課題・小課題があるのか、ロジックツリーのような「一覧表」を作成・提供してほしいと思います。それがあれば、一つずつの個別の取り組みが、全体計画のどの部分を対象としているのか、それが他の活動とどのように関係しているのかが明確になります。取り組みを対外的に公表する時においても、分かりやすく、納得のいく説明ができると思います。</p>
<p>(課題の分析・一覧表)</p> <p>評価会議には、発表事例以外のすべての取り組みについて、地域、簡単な内容、開始年等を一覧表にして出してほしい。普及指導員の仕事の全体概要を把握するため。</p>
<p>(課題の分析・一覧表)</p> <p>発表された課題だけでなく、他の課題の進捗なども見えるようになると、更によいと感じました。</p>

(普及指導員の役割)

今までの私の農業生活に普及課との接点があまり無かったもので、愛知県の農畜生産者の縁の下の力持ちですね、少し理解できました。